

コロナ禍で盛況なサービスを比較&実践

オンライン「恋活」で出会う!



サウナの呼吸
橋本祥平

SPA

10/12 週刊SPA 2021 470円

菊地姫奈



浅海ゆづき



すでに市場規模は10兆円規模
「あと払い」
銘柄を狙え



離婚しない男女のなれの果てとは?

ゾンビ化する夫婦たち

八代弁護士の発言で議論再燃
日本共産党が
目指す「革命」

初心者をかモにする
仮想通貨詐欺の最新手口

コロナ禍で受給者が急増中!
ヤング生活保護者の肖像

杉本哲太

9割は負け組 正社員 昇給ゼロ、45歳定年制 etc. 雇用の維持はいよいよ限界!

ゾンビ化する

共働き社会への移行過程で 苦しむ夫婦が増殖中!?

「平成以降に増え続けた離婚件数は20年にピークを迎えて今は減少傾向です。その一方で離婚の相談件数は増加。特に最近多いのが、恋愛感情はすでに冷え切ったにもかかわらず、さまざまな社会的要因で情性的に夫婦を続けざるを得ない人々です」

そう語るのは夫婦問題カウンセラーの岡野あつこ氏。関係性としてはすでに死にながら、夫婦を続けざるを得ない男女の様は、まさに「ゾンビ夫婦」だ。

彼らのような夫婦が絶えない社会的背景には「共働き世代の増加」と分析するのは育児世代の家庭問題に詳しいジャーナリスト・中野円佳氏。続けて話す。

「20年の日本の共働き世帯は12

40万世帯と専業主婦世帯の2倍を超えました(グラフ①)。国が推し進めた共働き社会は確実に実現しつつありますが、一方で過渡期ならではの社会的矛盾が日本の一般家庭に悲劇も巻き起こしています。そもそも現代の子育て世代夫婦が不和になる主な要因は①共働きの増加に反する旧態依然の社会構造、②賃金の低下および不安定な雇用、③根強い性別分業意識による家事・育児の不公平が挙げられます。①の最たる例はいまだに慣習的に残る長時間労働の存在でしょう。男女共に大量の仕事を行いながら、家事や育児をこなさなければならず、それが夫婦のすれ違いを生む要因になっているとともに離婚してシングルで生活す

夫婦たち

家庭はすでに崩壊しているにもかかわらず、さまざまな要因から離婚に踏み出せない「ゾンビ」の如き夫婦生活を送る男女が絶えない。彼らはなぜ離婚を選べないのか。夫婦が苦難の道を選ばざるを得ない日本社会の矛盾に迫る!

低収入、共働き、家事負担etc. 離婚しない男女の成れの果てとは?



ることへの大きなハードルになっています。また、②は年功序列や終身雇用制の崩壊と言いつてもいいかもしれませんが、男性も含めて正社員での雇用は減少し、家族手当を廃止する企業が増加。夫婦

共働きでやっと子育てができていく状態の家庭は多く、こちらも離婚すれば生活水準を保てなくなる可能性が高い。②のグラフからもわかるように、日本全体の平均賃金の低下も大きな問題です」

③は女性視点のものだが、心当たりのある男性も多いだろう。「共働きであっても、家事・育児の負担が女性に偏っている家庭は多い。③のグラフは国別の男女の労働時間を表したのですが、日本人男性の『無償労働(家事・育児・介護など)』は明らかに低い。家事や育児に参加する男性も増えていますが女性の考える水準に達せず、かえって関係悪化の要因になっているケースも多々見られます」

夫婦問題カウンセラー
岡野あつこ氏

ジャーナリスト
中野円佳氏



「子供が独立して、夫婦二人になったら、もう一緒にいる意味はな

す。とはいえ、互いに貴重な家事・育児資源でもあるため、離婚が難しいというわけです(中野氏) しかし、家庭崩壊しながらも同じ家に暮らすゾンビ夫婦の生活は離婚よりも過酷だ。

共働きで疲弊する夫婦たち 離婚を夢想する日々

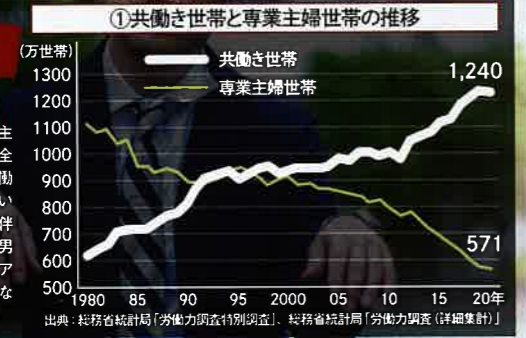
「子供が独立して、夫婦二人になったら、もう一緒にいる意味はな



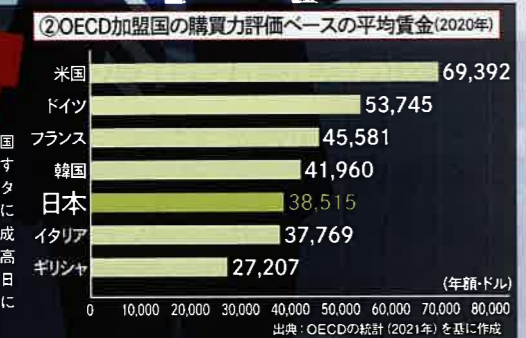
CASE 1
自分が外で稼ぎ 妻は家事育児の 分担なんだと 割り切っていた
岩間和幸さん (仮名・49歳)
結婚25年目

「コロナで減収した分は妻がパート代で補ってやりくりしているようにです。これから娘の教育費もかかるし、住宅ローンもあと6年残っている。いつ収入が戻るかわからないし、共働きでやっと暮らしているのに、一人で生活していくのは不安しかない。妻も両親が亡くなっていて実家もないので、年収200万円じゃ暮らしていけないでしょう。そこがお互いに今は

ゾンビ夫婦を生む3つの要因



共働きの増加
共働き世帯と専業主婦世帯は97年に完全に逆転。以降は共働き世帯が増加しているが、出産育児に伴う休暇などによる男女の賃金・キャリア格差はまだまだ大きな課題となっている



所得の低下
過去20年でG7各国の平均賃金が上昇するなか、日本とイタリアのみ下方傾向にある。他国が経済成長とともに物価を高騰させていけば、日本人の生活はさらに苦しくなっていく

③男女別に見た生活時間の国際比較

国	女性		男性	
	有償労働	無償労働	有償労働	無償労働
日本	272	224	452	41
韓国	269	215	419	49
フランス	175	224	235	135
米国	246	241	320	145
ドイツ	205	242	290	150
スウェーデン	275	220	313	171

家事負担の不公平
無償労働は育児・家事・介護などを指す。日本は男性の無償労働の平均時間が週41時間とダントツの低さ。また、有償労働との合計が493時間と長時間労働の傾向も見て取れる

「これまでも大きな夫婦ゲンカはありませんが、夜勤や残業が多い仕事なので家族とは生活がすれ違い、妻が復職して共働きになった後も家事や育児は任せきりでした。20歳を超えた娘2人は家を出て、家にいる三女(14歳)との関係は良好ですが、妻とは喋ることがないです。自分が外で稼ぎ、妻は家事育児の分担だと割り切っていました。家庭のことには一切口を出さない態度が無関心だと思われたのかもしれないです」

お金の管理は妻に任せきり。岩間さんは月4万円の小遣い制だ。「お金があると地元の後輩に奢りたくなる癖があって、家のローンを組むときに財布の紐は握られませんでした。家計を預かるのは妻なので何かを買う際には相談しないと使えません。それでも足りない分は、友達の会社でバイトさせてもらっ

「コロナで減収した分は妻がパート代で補ってやりくりしているようにです。これから娘の教育費もかかるし、住宅ローンもあと6年残っている。いつ収入が戻るかわからないし、共働きでやっと暮らしているのに、一人で生活していくのは不安しかない。妻も両親が亡くなっていて実家もないので、年収200万円じゃ暮らしていけないでしょう。そこがお互いに今は

離婚を切り出さない理由です」とはいえ、将来的に妻から離婚を切り出された場合には応じる覚悟はあるとも話す。

「もし妻が切り出すとしたら、娘が成人して独立するタイミングですかね。ちょうど住宅ローンもなくなるし考えられると思いますよ。離婚してお互いに生活が成り立つかどうかは話し合いますが、そこさえクリアしたら応じますよ」

ギリギリの共働きで疲弊するなか、娘3人を立派に育て上げている岩間さん夫婦。子供たちの一番の望みは夫婦円満のはずだが……

まだ結婚歴5年の夫婦でも容赦なくゾンビ化は進行するようだ。2年前に異業種から転職して不動産会社の契約社員になったという関本竜一さん（仮名・35歳）は

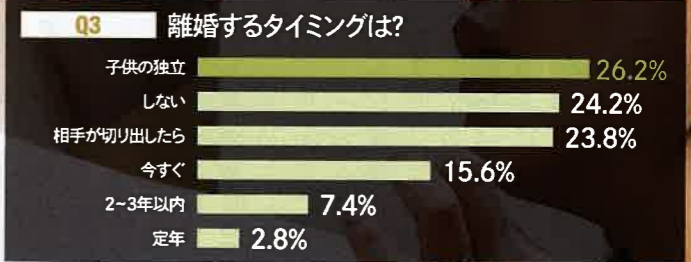
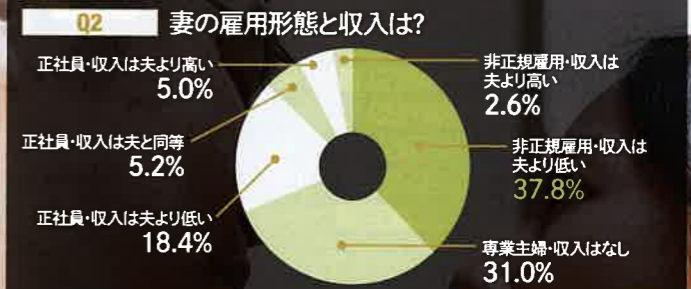
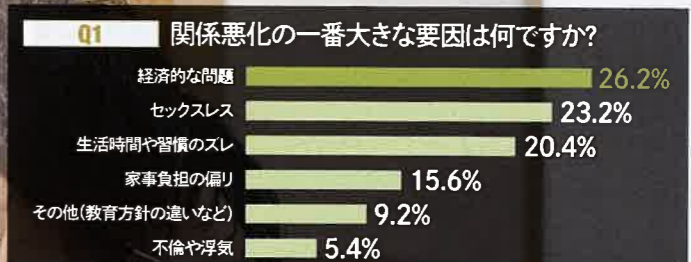
CASE 2 妻の家育育児を手伝いたいけど仕事で成果を上げないと…… 関本竜一さん (仮名 35歳) 結婚5年目

「ここ最近、仕事も夫婦関係もどん詰まりになっている」と嘆く。「2番目が生まれる前のタイミングでブラック企業の営業職から転職。1年くらいで正社員になれるかなと思ったのですが、業績が悪いからと今も待遇は変わらず非正規で年収は400万円。忙しいのにボーナスもないので妻の視線が痛いですね」

そもそも妻との関係が大きく悪化したきっかけは2人目の子供の誕生後だったという。

「1人増えるくらい変わらないだろうと思ってたら家事も育児も一気にハードに。妻も疲れて体調を崩しがちになりました。手伝いた

500人アンケート 夫婦関係に悩む男性会社員の実情を大公開



Q1の「その他」の回答は「教育方針の違い」が多かった。Q2の結果は統計的にも妥当に見えるが、回答した夫たちは結婚によって妻を非正規・専業主婦・ノンキャリアに追い込んだわけでもある。妻側からすれば「それなのに経済的な問題が悪化の原因と言われても……」というところか。Q3では「相手が切り出した」が3位に。「夫婦関係に悩んでいても、男性には喫緊の問題ではないということか」(中野氏)。Q4の「その他」は「相手の同意が得られていないから」という声が多かった

うした経済的問題でギスギスしている夫婦はかなり増えていると思われ(岡野氏) こうした事情で夫婦関係が悪化しながらも、離婚するタイミングとしては「子供の独立(26・2%)」まで耐えるべきと回答する人が多かった(Q3)。

「これは子育てにかかる金銭的事情も大きいですが、関係が悪化した状態で一度親権を手放してしまうと、子供との面会交流が厳しくなってしまう。日本特有の問題もあると思われ(岡野氏) また、07年4月以降には離婚する際に、婚姻期間中の厚生年金の分割を請求できる制度が作られました。不満があっ

ても『最後まで離婚しない』という意見が多い裏側には、自分の財産を妻に取られたくないと考えているからかもしれません(岡野氏) 続いて「Q4離婚に踏み切れない主な要因は?」という問いにも、やはり「子供(43・6%)」が多かった。意外にも「これは晩婚化の影響も絡んでいる」と岡野氏は語る。

「最近好きで夫婦になったというより、いい年になってきたからと妥協して結婚するケースも増えている。核家族が進んでいる現代で地縁もなく、唯一のよりどころが家族しかないことも多い。だから金銭的な意味だけでなく、精神的な身寄りも失いたくない思いも強いはず」(岡野氏)

夫婦生活に大きなストレスを抱えながらも、子供が独立するまで……いや、よもすれば死ぬまで耐え忍ばなければならぬ日本の夫婦の切ない現状が垣間見える結果となった。

コロナ禍で現状はさらに悪化!?

ゾンビ夫婦を生み出し続ける日本の現状は改善の兆しどころか、コロナの影響でさらに悪化しつつあるという。「以前は自宅で顔を合

いけど、成果を上げないと正社員になれないので、なかなか残業を切り上げられないんです。最近在宅勤務の日もありますが、妻の前で家事を手伝うと強烈なダメ出しをされる。正直、もともと家事は不得意なのにせざるを得ない空気があるのもツライですね……」

妻はまだ育休中だが、このまま共働きに戻れば負担が大きすぎるとさらに愚痴をこぼす。

「だったらいっそ専業主婦になったほうがいいのではと話したこともあります。でも僕だけの稼ぎでは教育費や老後資金が不安で無理という結論に。当てにされてないんだなあ」と悲しくなりましたよ」

わたせる時間が限られていたことで、摩擦も最低限で済んでいました。コロナ禍で夫婦の在宅時間が増加。不満が溜まりやすい環境になってしまいました。さらに休校になった子供の面倒や在宅中の夫の食事作りなど、家事育児の負担も倍増。感染対策への意識をとっても、意見が食い違い、言い合いになるケースも多発。苦しんでいる家庭が増えています(中野氏)

もし自分たちがゾンビ夫婦だと自覚した場合は、どんな対策が有効なのだろうか。岡野氏は「何も考えずにゾンビ夫婦をタラタラ続けることはお互いに得ではないし、ほかの家族にも悪影響を及ぼす」と指摘する。

「もしあなたがゾンビ夫婦の状態を脱したいと願いつつも、お金や子供などが要因で離婚に踏み切れないのなら、まずは関係修復の道を探りましょう。ただし、二人きりでは話がこじれる可能性が高い。信頼できる知人やカウンセラーなどに相談するのがよいでしょう。これだけ思い詰めていると曝け出すことで、関係が修復する可能性もある。それでも難しいとわかって、はじめて離婚のための準備を進める。離婚はやはり夫婦ともにリスクが高い行為ですから」

政府が一億総活躍社会や少子高齢化対策を唱うならば、まずはゾンビ夫婦をこれ以上生み出さない社会への転換を図るべきだろう。

熟年離婚を考えるなら 必要な準備とタイミング

将来的に子供の独立などを契機に離婚すると決心したなら、どんな道筋を立てるべきなのか? 数多くの夫婦問題に携わってきた行政書士の露木幸彦氏は「語る」。

「熟年離婚を実行するならば、望ましいタイミングとしては定年前です。定年後では退職金が支給され、年金も確定します。つまり、どれくらい財産を分けるかが明確になってしまふわけですね。一方、定年前なら退職金も離婚後の年金分割も曖昧で、支出も抑えられる。また、定年後に離婚交渉を進めると、死別を待つほうが金銭的に有利なので、離婚に際しては早急なことが多くあります」

離婚の同意を得る方法としては、配偶者に今の生活水準を保証するのが重要な点だとか。

「例えば住宅ローンが残っている持ち家でも、夫が出ていって妻が住み続けられるようにする。生活費も妻の収入で足りない部分は現金で補填してあげる。こうした条件を満たせば、夫がいなくなるだけで生活は変わらないため、折れることが多いです」

同意を得られたならば、ほかにも準備しておくべきことがある。「離婚する同意を得られたら、すぐに契約書を作成して署名をもらって保管しましょう。その時点で



行政書士 露木幸彦氏
行政書士・AFP、'80年生まれ。神奈川県出身。'05年4月、露木行政書士事務所開業。男女問題専門家。離婚サポーターとして著書多数。メディア出演も多い。

離婚届を書いてもらうのも大切ですが、書面が残ってないと妻が急に慰謝料をつり上げてくることもあります。また、その後のコミュニケーションのために、窓口として子供を味方につけておくのも重要ですね。あとは真技的なものですが、財産分与を抑えるために、在職中に給与の振込先を複数にしてへそくりをつくるケースも最近では増えています」

金銭面はもちろん、気力の面でも離婚のタイミングは定年前がベストかもしれない。





岡野あつこ氏監修

パンデミック発令中! ゾンビ夫婦診断

以下は岡野あつこ氏監修によるゾンビ夫婦の診断チェックリストだ。自分に当てはまるものにチェックして、夫婦仲の危険度を確認しよう。平穏だったあなたの家庭も気づかぬ間にすっかり腐っているかも……

- 1 仕事の悩みや愚痴を妻には言えない
- 2 妻にモラハラと言われたことがある
- 3 妻との会話の内容は実務的なものばかりだ
- 4 家事育児が苦痛でできればやりたくない
- 5 家計に関しては妻に任せきりだ
- 6 家にいるときはお互い服や髪に気を使わない
- 7 テレビや雑誌の離婚特集を見るとドキッとする



- 8 休日は夫婦別々に過ごすことが多い
- 9 妻は自分のパートナーというより「子供の親」だ
- 10 家にいるよりも仕事に行っているほうが楽だ
- 11 離婚を考えたことが3回以上ある
- 12 妻とは会話よりLINEやメールでのやり取りが多い



0~2個 普通の夫婦	3~5個 ゾンビ夫婦予備軍	6~8個 ゾンビ夫婦	9~12個 究極完全ゾンビ夫婦
---------------	------------------	---------------	--------------------

普通の夫婦の範疇。「多少のいざごはあっても、子供の成長など環境の変化で夫婦仲が修復する可能性は高い。ただし、4が当てはまっている場合は注意が必要です」

ゾンビ夫婦に半身突っ込んだ状態。「4が当てはまっていたらほぼアウト。まだ関係修復は望めるので、離婚は避けたいと考えるなら、一度二人で真剣に話し合うべき」

ほぼ情性で夫婦を続けている状態。「離婚を考えるなら準備を始めたいところ。関係改善したいなら、信頼できる人やカウンセラーも交えて話し合うと話がこじれずベターです」

ゾンビ夫婦の成れの果て。「ここまでくると家庭内の空気はかなり険悪なはず。ほかの家族にも悪影響を与えている可能性が高いので、真剣に離婚や別居の実行を検討すべき」



由美さん(仮名 30歳)
結婚5年目。介護職の夫(30歳)は年収390万円。彼女も時短で事務職をしながら4歳の息子を育てている

楓さん(仮名 37歳)
結婚7年目。会社経営の夫(40歳)は年収900万円。結婚を機に専業主婦に。現在3歳と7歳の娘がいる

麻衣子さん(仮名 46歳)
結婚20年目。夫(50歳)は年収750万円だが、彼女もエステ店を個人開業して年収は480万円。3人の子供がいる

座談会 アップデートできぬ夫に ゾンビ妻の本音が爆発

ゾンビ夫婦の生活に不満を抱いているのはもちろん女性も同様だ。ここではさまざまな要因で「夫への愛情が冷めてしまった」と感じている人妻3人に集まってもらい、その本音を吐露してもらった。

まずは、それぞれがゾンビ夫婦になった経緯を教えてください。

由美 うちはお互い年収400万円足らずだったから、出産前後に馬力が減って急に家計が苦しくなった。おまけに夫は8時出勤で帰りは22時の長時間労働。私が時短で職場復帰したあと家事育児は手伝ってもらえず、どんどん関係がギスギスしていった。

麻衣子 うちの夫も朝早くに家を出て22時に帰宅する生活。働き方

改革なんてどこ吹く風だね。家では子供の勉強を見たり、ペットの世話をしたりするくらい。

楓 コロナ禍でリモートワークにはなっていないんですか？

由美 うちが介護職だから、そういうのはない。むしろ前より少ない人数で回しているのかむしろ。麻衣子、うちも工場管理がメインだからなっていない。もしかしたら家にあるのが気まずくて職場に行っているだけかもしれないけど……まあ、そういうわけで共働きな

夫の年収だと大黒柱としては心細すぎる

由美 結構な金額ですね。

麻衣子 当てつけみたいになったから夫は不満だったけど、相談せずに決めて失敗したんだから文句は言わせない。

楓 すごいバイタリテイ。起業はハードル高いけど、私も復職への道は残しておくべきだった。アパレルの販売で年収300万円くらいだったから、喜び勇んで専業になったのが悔やまれる。

夫婦関係は冷めきっていても離婚まで踏み切れない理由は？

由美 やっぱ経済的な理由は大きい。私自身、正社員だけじゃフルタイムで働いても年収400万円弱。共働きだからこそ、子供をそれなりの水準で育てられている。

楓 私も同じくお金が不安。専業主婦になってキャリアは諦めたし、一人で生きるための安定した再就職先を探すのが現実的に難しい。

由美 子供が成長して、仕事に集中できるようにしたら真剣に離婚を考えるかもしれないけど。

楓 それと、夫も私も世間体を気にするタイプ。たぶん死ぬまで離婚できないんじゃないかな……。

収入面では自立している麻衣子さんは離婚の選択も視野に？

麻衣子 長男と次男が独立して、一番下の子が高校生になる3年後までは我慢かな。ただ、家とかクルマのローンをうちの実家が肩代わりしているから、夫が泣きついてくるかも(笑)。

不仲な夫婦関係が子供へ及ぼす悪影響は？

不仲なゾンビ夫婦の元で育った子供にはどのような影響が出るのだろうか？ 子育て心理の専門家、佐藤めぐみ氏に聞いた。

「子供は親のすれ違いや不仲に敏感なため、悪影響が出る場合が多々見られます。まずは「心理的なよりどころの喪失」。家族のケンカが絶えず、子供が家庭に居場所を見いだせなくなると、外にどこを求め、思春期であれば深夜に外出を繰り返したり、非行に走ったりする可能性を高めてしまうことも。次に「自己肯定感の低下」。も起きやすく、子供のことで口論になる場合、特にこれが顕著になります。また、顔色を見て行動することが習慣化すると、「人間関係への苦手意識」が出ることも。さらに、夫婦のどちらかが暴力を振るう場合、子供も問題が起きたときの解決方法に暴力を選択する「暴力の連鎖」も起きやすくなります」

夫婦間での話し合いは直接対話も重要だが、「ヒートアップしそうな議題ならばアプリ上での会話もオススメ」だとか。互いに不満が溜まって、常に子供に配慮した振る舞いが必要だ。



公認心理師 佐藤めぐみ氏
育児相談室「ゴジカ」を運営。専門は親の育児ストレス支援と子供の行動改善。著書には『子育て心理学的プロが教える 輝くママの習慣』(あさ出版)